

イスラム客にも

増える来日 16億人市場に熱視線



宮崎県から礼拝のため熊本市にあるモスクを訪れ、近くのハラール・ショッピングで品定めするパキスタン出身のシャザード・クラムさん(31)と妻の佳奈さん(29)=熊本中央区、簗智広太撮影

戒律にのっとってニワトリを処理するマンウェル・タグチさん=鹿児島県南九州市、岡田玄撮影



日本を訪れるイスラム教徒が増える中で、イスラム教の戒律を守った食材や料理を提供する動きが広がっている。信仰心があつたイスラム教徒に配慮し、祈りの場所の整備も進む。背景には、16億人もいわれる世界のムスリム市場への期待がある。



鹿児島県南九州市の食肉会社「エヌチキン」は一昨年、イスラムの教えに基づく方法で処理された鶏肉の生産を始めた。「人口が減る日本では、やがて行き詰まる。ムスリム市場に可能性がある」と同社の黒木博取締役は期待する。イスラム教徒は、豚肉やアルコールなどを避けなければならず、豚以外の肉も処理方法が厳しく定められている。戒律に沿った食べ物などは「ハラール」(アラビア語の「許された」などの意味)と呼ばれる。

同社は、国内の認証機関から、工場がハラールの基準を満たしているとの認証を受けた。毎月の生産量は約1トン。国内のイスラム教徒向けや日本を発つ国際線の機内食向けに出荷。ハラールなら通常より1・5倍程度の価格で売れるのが魅力だ。

認証機関も活況だ。その一つ、NPO法人「日本ハラール協会」(大阪市)には、今年になって認証依頼が急増し、いまでは月に70社ほど。東京五輪開催が決まり、イスラム教徒の観光客増を見込む企業からの問い合わせが目立つという。厳しいハラール認証は取

熊本「先進県」狙う

自治体もイスラム市場に注目している。熊本県は「ハラール先進県」を目指す。県産の牛肉の輸出拡大を狙う。「目標のは、インドネシアでの県産牛のブランド化です」と担当者。県南部にはすでに、ハラール認証を受けた食肉業者が営んでいることもあり、生産者への支援策を整えていく方針だ。

締結式で合意覚書を交わす幸山政史・熊本県長(左手前)とHDCの最高経営責任者(中央)=熊本市提供

ASKA容疑者は、友人009年に活動を休止後、

を関係先の調べで得たうえにしていない。

戒律に沿う食・空港にも礼拝室

得しなくとも、可能な範囲でイスラム教の戒律に配慮する「ムスリム・フレンドリー」という考え方を採用する飲食店も自立つ。豚肉やアルコールを使わないメニューを用意したり、礼拝スペースを設けたり。

福岡・天神のレストランなどは、肉の代わりに大豆を使用して食べられるメニューをそろえており、好評だ。福岡市は3月、ムスリム・フ

レンドリーの飲食店など22軒を記したマップを作成。観光誘致に生かしたいと考えた。

こうした動きの背景には、イスラム教徒の観光客の増加がある。観光庁の統計によると、昨年はマレーシアから17万6500人、シリアから13万6800人が訪日。いずれも前年比で約35%増えた。来日するためのビザ発給要件が緩和されたことも増加の一因とされる。(岡田玄)

モスク次々整備

海外から訪れるイスラム教徒のため、各地の空港では、礼拝室の設置を進めている。福岡空港では4月末、国際線ビルに礼拝室ができる。手などを洗うスペースがあり、カーペットが敷かれている。イスラム教徒は

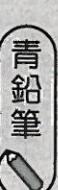
信仰心があつく、1日に5回、聖地メッカの方角に向かって祈る。エジプト出身の九州大研究員アリ・ガマルさんは「なるべく時間通りにお祈りをしたいので、礼拝室ができるうれしい」。空港内の礼拝室は200

席の断食月に合わせて6~7月の完成を目指す。呼びかけ人の一人で鹿児島大大学院のヒツシャム・R・イブラヒム教授(エジプト出身)は「イスラムの文化やハラールを広げる拠点にしたい」と話す。

同県天草市では、地元名産の地鶏「天草大王」をハラールとして輸出する事業が進む。地元農家などでつくる天草大王生産販売組合が、県の協力などを得ながら、ハラールに則した加工が検討しているという。熊本市も、イスラム圏からの観光客誘致やハラールの開発などを交わした。

4月、食品会社やホテルなど県内20社などによる訪問団を率いてマレーシア・クアランプールを訪問。ハラールの啓発活動などをする政府直轄の「ハラール産業開発公社(HDC)」と協力の合意覚書を交わした。

泊先の食事をハラールにして好評だった。市の担当者は「県と市が連携し、ハラールに理解のある町づくりを目指していきたい」と話す。(簗智広太)



▽米大リーグ・ヤンキー
ス、田中将大投手(25)の出

身地、兵庫県伊丹市の昆陽池公園で、田中投手にゆかりのヤマボウシの木が白い花を咲かせた。